

## 卒業式式辞

新型コロナウイルス感染者が出始めて、はや2年を経過しましたが、残念ながら、コロナ禍は未だ終息しておらず、まだまだ不安な社会情勢の中、ご来賓ならびに保護者の皆様をお迎えして、ここに呉工業高等専門学校令和3年度第54回卒業式および第25回修了式を挙行できますことは、本校教職員ならびに在校生一同の大きな喜びであり、ご臨席の皆様方に対し、心よりお礼申し上げます。

ただいま、本科5年生166名、専攻科2年生27名が、それぞれの課程を終え、無事卒業することになりました。学生諸君の中には、モンゴルからの留学生トゥーギーさん、カンボジアからの留学生イヴリさんがいます。異国での勉学は、色々困難なことがあったと思いますが、それを克服されました。諸君らの向上心と努力に対し、敬意を表します。また、これまで皆さん方を支え、励まし続けていただいた保護者ならびに関係者の皆様に対し、本校を代表して、改めて感謝を申し上げますとともに、皆様方と一緒に卒業生・修了生をお祝いしたいと思います。皆さん、卒業ならびに修了、おめでとうございます。

今年度で、本校の卒業生は7,814人、専攻科修了生は533人となりました。

皆さんは、県内の中学卒業生の、わずか0.6%の人たちしか進学しない、呉高専を選んで入学されました。一人一人が志をもって本校に入学して来られたことでしょう。ただ、おそらく、予想以上に難しい授業に苦戦したことと思います。中には、こんなはずではなかったと悩んだ学生諸君もいたことでしょう。と言いますのは、本科の専門教育は、大学工学部と同等であり、本来ならば高校、大学を合わせて7年間かける教育課程を皆さんは5年間で終わらせています。難しかったのは当然です。しかし、本日、皆さんは、立派に卒業されました。大変誇らしいことです。

高専が創設されて今年で60年となります。この間、高専はものづくりの中核を担う技術者を育てるために、独自の教育プログラムの中に実験・実習・研究を取り入れながら身につく工学教育を行い、さらには、各専門分野に関連する様々なコンテストを実施し、学生の知識、技量、技術に磨きをかけてきました。このような高専教育で育った学生諸君は、皆さん方が、自分で思っている以上に鍛えられ実力を持っています。このことが、企業からも、また、大学からも高専生が望まれるゆえんです。

さて、日本は超高齢化社会に突入しています。今後も労働人口は減り続けます。これにより、日本の生産性は確実に減少し、GDPは下がっていきます。一方、1960年代から70年代の高度成長期に作られた社会インフラは寿命が来てリニューアルが必要となっています。また、地球温暖化に起因した気象変動のため、毎年、自然災害が多発し多くの生命・財産が失われ災害対策などにも莫大な費用がかかっています。また、高齢化社会のため医療費の支出が膨大になっています。このような負の要因が多くなった時代に皆さん方は直面していることを自覚して頂きたい。課題は山積しており、これを解決するには、日本には技術力しかないと私は考えています。皆さん方の力を発揮して課題を解決し、プラスベクトルを向けるよう頑張ってくださいというのが、大きく言えば国の願いなのです。

「ソサエティ 5.0」が提唱している社会では、様々な業種、企業、人、機械、データなどがつながり、新たな付加価値や製品・サービスを創出し、生産性を向上させ、高齢化、人手不足、環境・エネルギーなどの社会的

2022/3/18

課題を解決し、産業競争力を強化し、生活の向上・経済の健全な発展を目指しています。その取組として、自動走行・モビリティサービス、ものづくり・ロボティクス、バイオ・素材、プラントインフラ保全、スマートライフなどが考えられており、AI、ICT や IoT などを使った革新的な技術開発が不可欠です。さらには、多くの自然災害に対応するための防災技術、災害に強い社会インフラの開発などやらなければならない事は山ほどあります。皆さん方には、このようなあらゆる方面の技術開発に携わり、是非ともその力を発揮して頂きたい。社会から皆さんにかけられる期待は想像以上に大きいと思います。

研究にしても技術開発にしても重要なことは、その目的を明確にすることです。往々にして目的を見失い、何をやってるのかわからないケースがあります。その時は、まず、原点にもどり、「何のためにそれをやるのか」自問自答して、その後は、合理的に進めてゆくことが肝心です。そして、チームワーク。一人ではなにもできません。自分の考えを持ちながらもお互いの違いや考えを理解し合う、すなわち多様性を認め合い、ものごとを進めて行くチームワークが大切です。さらには、技術者同士のネットワークは大きな仕事の助けになります。高専の仲間は、一生の宝だと思いますので、つながりを是非大切にしてください。

最後に、何かを行うに当たっては、常に目標を立て、地道に努力を積み重ねることが大切です。その努力を必ず見ている人はいます。皆さんが、これからも成長を続け、多くの人々の未来に貢献されることを願います。式辞といたします。

令和4年3月18日

呉工業高等専門学校長

篠崎 賢二